

専門委員会開催報告

専門委員会名	平成 26 年度第 1 回「シグマ」特別専門委員会
開催日時	平成 27 年 1 月 22 日(木) 13:30 ~ 16:30
開催場所	東京工業大学 原子炉研 北 2 号館 6 階会議室
参加人数	14 名 渡辺主査, 千葉幹事, 青山委員, 井頭委員, 池田委員, 柴田(理)委員, 原田委員, 福田委員, 丸山委員, 山野委員, 吉岡委員, 吉田委員, 岩本氏(深堀委員の代理), 横山氏(石川委員の代理)
議 事	<p><u>1. 報告事項</u></p> <p>(1) 委員会活動報告</p> <p>渡辺主査より、平成 25,26(2013,2014)年度の活動ならびに成果について報告があった。2 つのワーキンググループ(将来検討 WG と教科書作成 WG)の活動を継続し行い、今後の核データ活動方針の検討及び核データ分野の教科書目次案を作成した。学会の「総合講演・報告(2013 秋)」で成果報告、及び企画セッション(核データ部会や炉物理部会との共催)(2014 秋、2015 春予定)を実施した。さらに核データ部会との合同で、核データニュースの 105~110 号を刊行した。</p> <p>(2) 核データ将来検討ワーキンググループの活動報告</p> <p>千葉幹事から、核データ将来検討 WG の活動報告があった。WG 設置の背景、これまでの活動経緯と核データ研究に対する提案、本シグマ特別専門委員会の位置づけ等について WG 内で議論されてきた内容が報告された。その 1 つに人材育成に関連した提言が含まれており、(1)で報告した教科書作成 WG にも関連した質疑応答(紙媒体の出版か PDF 版の公開か、対象は学部生か院生か等)があった。なお、本 WG の活動報告の一部は、すでに核データニュース No.106(2013)で公表済である。</p> <p>(3) 核データ部会の活動報告</p> <p>千葉幹事(現核データ部会長)から、核データ部会の最近の活動について報告があった。11 月に核データ研究会を北大で実施し、多くの学生・若手の参加があり盛況であった。次期運営委員会委員の改選があり、次期部会長(2015.4~)には深堀氏(JAEA)が選出された等の報告があった。</p> <p>(4) 核データ部会の活動報告</p> <p>山野委員(現 JENDL 委員会委員長)から、2014 年度の JENDL 委員会(原子力機構)の活動について紹介があった。2 つの専門部会(核データ専門部会と炉定数専門部会)の合計 8 つの WG の活動について、各 WG 議事録を要約する形で報告があった。また、山野委員から活動記録のアーカイブ化の重要性から核データニュース等で定期的に活動成果を報告することについて提案があった。</p>

(5) JAEA 核データ研究 Gr の現状報告

深堀幹事の代理出席の岩本修氏から、JAEA 核データ研究 Gr の現状報告があった。旧応用核物理研究 Gr と核データ評価研究 Gr が合併し、平成 26 年度から「核データ研究グループ」に再編され、核データの測定及び評価研究を実施しており、測定や評価研究、国際協力の現状について報告があった。

2. 審議事項

(1) 委員会の継続申請について

日本原子力学会専門委員会規程、内規、委員選定に関する内規の確認作業を行った。これら規程に基づいて、本委員会の継続申請を行うことが了承された。

(2) 委員の交代について

現時点までに主査に連絡のあった委員の交代ないし退任の申し出について報告があり、委員の交代および退任が了承された。

(3) 次期主査の選出について

平成 27 年 3 月 31 日で現主査の任期が終了する。そのために、シグマ特別専門委員会主査選任規定(H19.12 制定)に従って、渡辺主査から選挙管理委員会の発足についての発議があり、その設置が承認された。委員長には現主査を当て、委員 3 名の候補に深堀幹事、柴田(理)委員、松本委員の提案があり、了承された。選挙は主査選任規定の第 5 条に従い、電子メールによる投票を行い、継続申請書類の提出期限(2/13)までに次期主査を選出することにした。なお、現規定第 2 条の「主査の任期は原則 6 月 1 日から 2 年間とする」から、現学会ルールに従って、「主査の任期は原則 4 月 1 日から 2 年間とする」に改定することが承認された。

(4) 次期2年間(平成 27,28 年度)の活動計画について

委員会の位置づけや今後の委員会活動について意見交換を行った。本委員会は、原子力・核データ分野内外の広い分野を代表するオピニオンリーダーで組織され、核データ研究活動の必要性を大所高所から議論できる場であり、核データ研究活動の正当性を与えることを1つの重要な機能にすることについて、出席者間の合意が得られた。次年度以降2年間の活動方針を議論し、以下のような具体的な目標を設定した。

①核データニーズを取り纏め、公表する。

委員会内に WG(委員以外も参加)を設置し、核データニーズの調査・取り纏めを行い、優先度を付した一覧表を作成し、それを本委員会でオーサライズして学会誌等を活用して情報発信する。

②核データ分野の教科書執筆を本格化する。

教科書 WG を強化し、形の見える教材作成から取り掛かる。例えば、大学教員を中心に、それぞれの講義用 ppt 資料を持ち寄って、15 回分の講義資料のたたき台を

	<p>作成し、それに基づいて詳細な説明文を起草する等、具体化する方法を検討し、実施する。</p> <p>さらに、核データユーザーに対する JENDL の普及活動の重要性が指摘され、その方法についても意見交換を行った。今後、JENDL 委員会等とも連携して継続的に議論していくことにした。また、核データニュースの発行(核データ部会と合同発行)や原子力学会での総合講演・報告を2年に1度企画・実施することも併せて承認された。</p> <p>(5) 委員会の進め方</p> <p>電子メールによる議論を基本とし、必要に応じて委員会開催(年 1 回程度)を学会開催時の機会等を利用して行うことが了承された。</p> <p>(6) その他</p> <p>千葉幹事より、複合核反応および関連トピックスに関する第 5 回国際ワークショップ(CNR*15)を東工大で 2015 年 10 月 19-23 日に開催することが報告され、本委員会の共催について提案があり、了承した。なお、特別専門委員会が国際ワークショップ等に共催可能かどうかは学会事務局に問い合わせることにした。(注:後日、学会事務局からは可である旨の回答があった。)</p>
備 考	